

## テーマ:(認知症)患者さんのナビゲーション

### ■ 背景

- ・ (特に認知症の)患者さんは、病院内での移動に迷われることが多く、徘徊や身体拘束の対象になることもある。
- ・ 認知症の患者さんは注意力の低下や記憶障害などにより、案内表示を見つけられなかったり、道順を覚えられず、ナビゲーションが必要な場合がある。
- ・ 病院によっては色々な工夫が試みられていたり、現実的には病院スタッフや看護師が寄り添って(時間をとって)案内している。
- ・ スマホやタブレット等を利用した案内も試験的には考えられているが、高齢の方や認知症の患者さんには難しい。



【現状の実例】

### ■ 現在の状況、対応方法

- ・ 迷っている患者さんを見かけたら、病院スタッフや看護師が声をかけて案内する。
- ・ 病院内のサインを分かりやすく大きくしたり、診療科で色を統一したりして、一般の患者さんに分かり易くしている。
- ・ 家族が付き添って患者さんの面倒を見ている。

### ■ 現在の課題

- ・ 一般の患者さんでも分かりにくい案内サインのままであり、高齢者や認知症の患者さんには極めて不親切である。
- ・ 病院スタッフや看護師、患者さんの家族の労力負担が大きい。
- ・ 新しいナビゲーション・システムを導入するだけの費用対効果が見出せない。

### ■ 使用頻度や市場性(マーケットサイズ)

- ・ AR・VRスマートグラスの世界市場規模  
2021年 約13百万 US\$(実績)  
2030年 約42,260百万 US\$(予想)  
出典: <https://newscast.jp/news/1987996>
- ・ 参考: 手術用スマートグラスの市場規模  
2020年 1億4528万7760 US\$(実績)  
2028年 3億393万4140 US\$(予想)  
出典: <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000426.000071640.html>

### ■ 解決策案の例(概念のみ)



<イメージ図>

#### 機能アイデア例

- ・ 自分で操作をしなくても行き先が見える(分かる)ような機能
- ・ 自分自身の向きや位置と連動し、行くべき方向を示してくれる機能

### ■ リハビリテーション部ホームページ

[http://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/department/central\\_clinic/rehabilitation\\_dep/index.html](http://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/department/central_clinic/rehabilitation_dep/index.html)